

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



62

2011年(平成23年)1月20日発行

C O N T E N T S

| | | | |
|--------------------------|----------------|-------|----|
| 在学学生へのメッセージ「卒業研究について」 | 学長 | 千熊 正彦 | 3 |
| 新しい薬剤師国家試験制度 | 薬剤師国家試験対策委員長 | 掛見 正郎 | 4 |
| 第45回大葉祭に思う | 学生部長 | 土井 勝 | 6 |
| 第6回特待奨学生表彰 | 学生部長 | 土井 勝 | 8 |
| FD活動2010 | FD委員長 | 高岡 昌徳 | 9 |
| CBT体験受験について | CBT実施部会責任者 | 井上 晴嗣 | 10 |
| 平成21年度OSCEの実施状況について | 臨床実践薬学研究室 | 荒川 行生 | 12 |
| 研究室の紹介（生薬科学研究室） | | | 14 |
| 研究室の紹介（生体防御学研究室） | | | 15 |
| 資料展示室だより | 図書館長（資料室長） | 三野 芳紀 | 16 |
| 就任のご挨拶 | 生化学研究室 教授 | 福永理己郎 | 16 |
| 学生相談室だより | 学生相談室相談員 | 小田 佳子 | 17 |
| 大葉祭「宝島～陽気な海賊たち～」を終えて | 平成22年度大葉祭実行委員長 | 池ヶ谷貴之 | 18 |
| 「大阪薬科大学報」に関するアンケート結果について | 総務広報部会 | | 26 |
| 薬用植物の紹介（ハトムギ） | 薬用植物園長 | 馬場きみ江 | 28 |

| | | |
|--------|-----------|----|
| 事務局だより | 総務課 | 19 |
| | 教務課 | 20 |
| | 学生課 | 21 |
| | キャリアサポート課 | 24 |
| | 図書課 | 25 |





卒業研究について

学長 千熊 正彦

学生時代に決定しなければならない最も重要な問題のひとつは、職業の選択であろう。将来何をを目指すのか、悩む問題である。自分に適した職種を選ぶことはなかなか難しいことだ。自分をしっかり見つめ直す必要がある。就職して社会に出ることに対する漠然とした不安を卒業前に感じていても不思議ではない。私の場合もまさにそんな状況にあるときに、卒業研究（以下「卒研」という）に取り組んだ。

私は高校時代に昆虫類に興味があったので、生物研究会というクラブに入り、将来は農学部で昆虫の化学生態学を勉強することを目指していた。ところが、農学部に進学した先輩の話によると、当時の研究手法では、昆虫学に大きな学問的発展が望めそうにないことと、何よりも昆虫ではメシが食えないぞという一言で農学部を諦めて、化学に転じることとして、生物学の応用が農学なら、化学の応用は薬学だろうと薬学部を目指すことにした。入学してみると同級生は皆個性豊かで優れた能力の持ち主ばかりに見えた。同級生から受ける影響も大きかったが、振り返ってみると、卒業後どうするのか悩んでいたこともあり、4年次で配属になった研究室での教員や大学院生など先輩からの影響の大きさは同級生から受けたその比ではなく、質にも差があった。

研究室では、実験に夢中で取り組んだ。卒研の課題は「金属キレート（金属錯体の一種）」であり、溶媒抽出用キレート生成試薬を用いて金属イオンの液-液二相分配に関する研究に取り組むことになった。水と混じらない有機溶媒に一定濃度のキレート生成試薬を溶かした溶液と金属イオンや緩衝液を含む水溶液のそれぞれを同じ容量ずつ試験管に加えて、激しく振り混ぜた後、静置するとふたたび溶液は二つの相に分離する。緩衝液のpHを少しずつ変えて、両相に含まれる金属イオンの量をそれぞれ測定するという簡単な実験により、金属キレートの生成反応を解析するというものであった。講義では習わなかった内容だったが、学生の自分でも何とか理解できる理論と実験であった。私が実験研究に興味を持つように取って学生でも理解できる研究課題を与えて下さった指導教官の作戦でもあったようだ。私はたちまちのめり込んでしまった。研究がおもしろい、これが私の人生を決めることになった。

現在の学生諸君も、配属研究室で卒研を行うというスタイルは私の学生時代と同じである。どの研究室を選ぶのか、悩む学生が多いのも変わらない。研究室の選択について悩む学生に対しては、「自分が興味を持てる研究をやっている研究室を遠慮なく希望しなさい。もしも、定員の関係で希望が叶えられなかったとしてもめげることはない。定員が満たされていない他の研究室を希望すればよろしい。定員に余裕のある研究室からは大歓迎されるに違いない。私から言えば、どの研究室に配属されようが学ぶべきことは問題解決の方法論であるのだから、研究分野や課題の違いはあまり大きな問題ではない」とアドバイスしてきた。研究分野が就職に影響することもあるだろうが、博士課程の大学院生ならともかく、学部生や修士修了生の場合は、卒業後の進路が幅広いので就職に際しては薬学部出身であることが要求されることがあっても出身研究室の重要性は相対的に小さいと信じている。

卒研は人生の一里塚ともいえる。研究者を目指して大学院に進学する人にとっては、その出発点になる。就職して社会人になる人にとっては、人生の区切りのような位置づけになるかと思われる。まじめでないことで有名だった学生が、卒研では目の色を変えて実験をやったという伝説がどこの研究室でも語り継がれているものだ。卒業後、大学との関係が卒業研究室を通じて永くつながるようになって欲しいと願うものである。

現役学生にあっては、どの研究室でもよいが、選んだ研究室では先輩から実験の手ほどきを受けながら、自らも辞書首っ引きで文献を読み、与えられた研究課題の問題点を理解することに努めてほしい。昨年12月に本学で高校生を対象に講演された2009年ノーベル化学賞受賞者アダ ヨナット博士は、研究者を志望する高校生に対して、「何でもよい、自分が興味をもてることを勉強しなさい」と話された。同感である。

平成16年に学校教育法（昭和22年法律第26号）及び薬剤師法（昭和35年法律第146号）が改正され、平成18年度から新たな薬学教育課程として6年制課程が導入されるとともに、6年制課程を修めて卒業した者に薬剤師国家試験の受験資格が与えられることとなった。このため、新たな6年制課程において習得した知識、技能及び態度に関し、これからの医療の担い手として求められる資質を的確に確認するに相応しい薬剤師国家試験制度のあり方について、これまで厚生労働省医道審議会薬剤師分科会において検討が重ねられてきた。その結果、まず薬剤師法施行規則（昭和36年厚生省令第5号）が改正され¹、その後厚生労働省から「新薬剤師国家試験について」²及び「薬剤師国家試験出題基準」³が相次いで発表された。ここでは、これら薬剤師国家試験制度改正の骨子をまとめて述べることにする。

① 薬剤師法施行規則の改正点

(1) 薬剤師国家試験の問題区分

薬剤師国家試験を必須問題試験及び一般問題試験に区分し、一般問題試験については更に薬学理論問題試験及び薬学実践問題試験に区分したこと⁴。

(2) 薬剤師国家試験の科目

必須問題試験の試験科目は、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」の7科目としたこと。

一般問題試験のうち、薬学理論問題試験の試験科目は、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」及び「法規・制度・倫理」の6科目とし、薬学実践問題試験の試験科目は、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」の7科目としたこと。

(3) 薬剤師法施行規則の施行期日

施行期日を平成23年4月1日にしたこと。

② 試験出題形式及び解答形式

試験は、正答肢を選択する問題（一問一答形式、正答の設問肢が一つではない形式又は解答肢の全ての組合せの中から正答肢を選択する形式）を基本とする。ただし、実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題や、明らかに誤りである解答肢や重要性が低い解答肢を選択する問題などを出題する。また、必須問題などの場合にあっては、設問の正誤を一問一答形式で問うことを基本とすること。

なお、出題に関連する情報をその一部に含む小冊子や画像等の資料（例：添付文書情報）を問題とともに配付・供与し、その活用によって解答を導いていく方式など、実務に即した技能・態度等を確認することが可能と思われる方式については、積極的に取り入れていくこととする。

③ 試験問題数

試験問題数は必須問題が90問、一般問題（薬学理論問題）

が105問、一般問題（薬学実践問題）が150問、合計345問とし、その内訳は表1の通りとする。なお、薬学実践問題は、「実務」20問に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題130問とすること。

④ 出題基準

薬剤師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、薬剤師国家試験委員が試験問題を作成するうえで「妥当な出題範囲」と「ほぼ一定の問題水準」を保つために策定される基準であり、その内容については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね4年を目途に見直しを行い、薬剤師国家試験の改善を図っていくこととされている。平成18年に薬学教育の修業年限が6年間となり、平成24年3月には、6年制課程を修了した薬学生が国家試験を受験することから、新たな出題基準を策定すべく、医道審議会薬剤師分科会（以下、「分科会」という。）の下に設置された薬剤師国家試験出題基準改定部会において検討を行った。本出題基準は、分科会及び分科会の下に設置された薬剤師国家試験制度改善検討部会の議論を経て、平成21年12月にまとめられた「新薬剤師国家試験について」に基づき、6年制教育の基礎となった「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」（以下、「薬学教育モデル・コアカリキュラム等」という。）の内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定したものである。

(1) 出題にあたっての留意事項

① 全般的な留意事項

- ・薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能、態度を評価する問題とする。
- ・高い倫理観、医療人としての教養、医療現場で通用する実践力を確認することに配慮する。
- ・7領域の内容については、相互に密接に関連していることから、具体的な問題の作成に当たっては、重複の無いよう領域間の調整には十分な配慮が必要である。
- ・資格試験として過度に難解な問題は避ける。
- ・問題の文章構成や条件設定に留意し、解答すべき選択肢の数が1つでない場合には、正解数を明記することを基本とする。
- ・問題の難易が特定の分野に偏らないこととする。
- ・可能な限り、正しいもの（又は正しいものの組合せ）を問う問題とする。
- ・画像や写真等を利用した問題の出題も検討する。
- ・各種基準などの数値は、記憶することが必須又は極めて有用な数値である場合を除いて、数値そのものを問う出題はしないこととする。
- ・各試験法を問う出題については、保健衛生上の意義が大きく、かつ、当該領域において汎用されているもの、又は原理的に重要なもののみを出題し、その意義、測定原理など、試験又は測定実施のために必要とされる基礎的事項を問うこととする。また、専門業務において習得すべき操作などの詳細は出題しないこととする。
- ・末梢的事項や、一部の例外的事項を取り上げるような問題の出題はできるだけ避ける。

- ② 必須問題及び一般問題における留意事項
- ・必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認するものであることにかんがみ、各領域における基礎的な内容を問うものとする。
 - ・必須問題は、五肢択一形式で問うことを基本とする。なお、正しい設問肢の組合せを問う形式や、設問肢の正誤の組合せを問う形式とはならない。
 - ・一般問題は、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認するものであることにかんがみ、一般問題（薬学理論問題）は各領域における技能・態度を含む薬学の理論に基づいた問題となるよう留意する。
 - ・一般問題（薬学実践問題）は、医療や公衆衛生等の実務において直面する一般的課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認するため、症例、事例を挙げる等、実践に則した問題となるよう留意する。

(2) 出題基準の適用時期と次回改定

新出題基準については、平成24年に施行される薬剤師国家試験（第97回）から適用する。また、出題基準については、おおむね4年を目途に改定されるべきものとされているところであるが、薬学教育モデル・コアカリキュラム等薬学教育の見直しの動向を勘案しながら、改定作業を行う必要がある。

⑤ 合格基準

以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。

- ① 全問題への配点の65%を基本とし、問題の難易を補正して得た実際の総得点以上であること。

- ② 一般問題について、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の35%以上であること。
- ③ 必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の50%以上であること。

⑥ 過去に出題された試験問題(既出問題)の取扱い

新薬剤師国家試験における既出問題のうち、薬剤師に必要な資質を的確に確認することが可能な良質な問題として一定の評価が与えられた問題を活用することとし、その割合は、現行制度と同程度（20%程度）とする。ただし、新薬剤師国家試験における既出問題が十分に蓄積されるまでの間に活用する割合は、この限りではないこととする。なお、既出問題の活用にあたっては、単なる正答の暗記による解答が行われないよう、問題の趣旨が変わらない範囲で設問及び解答肢などを工夫する。

- 1 厚生労働省医薬食品局長通知（薬食発0120第10号：平成22年1月20日）
- 2 厚生労働省医薬食品局長通知（薬食発0120第12号：平成22年1月20日）
- 3 厚生労働省医道審議会 薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会「薬剤師国家試験出題基準」（平成22年10月6日）
- 4 必須問題とは、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題のことであり、一般問題とは、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する問題のことである。

表1 新薬剤師国家試験の出題基準、出題区分、出題数

| 科目 | 出題基準 | | 問題区分 | | | 出題数計 |
|----------|-------------|------|--------|--------|-------------------|------|
| | 大項目 | 必須問題 | 一般問題 | | | |
| | | | 薬学理論問題 | 薬学実践問題 | | |
| 物理・化学・生物 | 物質の物理的性質 | 15問 | 45問 | 30問 | 15問 (複合問題) | 60問 |
| | 化学物質の分析 | | | | | |
| | 生体分子の構造 | | | | | |
| | 化学物質の性質と反応 | | | | | |
| | ターゲット分子の合成 | | | | | |
| | 生体分子・医薬品の化学 | | | | | |
| | 天然物由来薬物 | | | | | |
| | 医薬品の開発と生産 | | | | | |
| | 生命体の成り立ち | | | | | |
| | 分子レベルの生命理解 | | | | | |
| 衛生 | 健康 | 10問 | 30問 | 20問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| | 環境 | | | | | |
| 薬理 | 薬物の効き方 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| 薬剤 | 薬物の体内動態 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| | 製剤 | | | | | |
| 病態・薬物治療 | 薬物治療 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| | 薬物治療に役立つ情報 | | | | | |
| 法規・制度・倫理 | 薬学と社会 | 10問 | 20問 | 10問 | 10問 (複合問題) | 30問 |
| | 医薬品の開発と生産 | | | | | |
| | ヒューマニズム | | | | | |
| 実務 | 薬剤師業務 | 10問 | 85問 | - | 20問+65問 (複合問題) | 95問 |
| | 病院業務 | | | | | |
| | 薬局業務 | | | | | |
| 出題数計 | | 90問 | 255問 | 105問 | 150問 | 345問 |

学生部長 土井 勝

第45回大薬祭は、10月29日（金）から31日（日）まで開催された。期間中に台風が接近するとの予報で、開催が危ぶまれたが、予定どおり全ての企画を終えられたのは、学友会執行部と大薬祭実行委員会の皆さんが大薬祭にかける意気込みのおかげである。企画の方針、イベントの実施状況等については、実行委員長 池ヶ谷貴之君の報告があるので、ここでは、監督指導する立場から、つれづれ思うことを記すことにする。

学園祭の意義

薬学部が6年制になり、カリキュラムに少しはゆとりができるかと思ったら、教職員ばかりか学生まで、返って忙しくなってしまった。薬剤師国家試験の出題基準が変わり、入学早々から卒業まで、大学は学生に鞭を当てる。厳しい受験勉強のトンネルをようやく抜けたというのに、息つく間もなく修業年限6年を一気呵成に走り抜けることは、なかなか大変だろう。

不況で就職もままならない世間一般の大学と違い、就職率100%を誇る本学では、取りあえずは、勉学に精出して卒業すれば事足りる。確かに本学の学生は、よく勉強する。しかしである、いくら座学を積み重ねても、こぢんまりした人間（薬剤師）にしかなれない。ひと味もふた味も違った幅と深みを備えた人間になるには、青年時代にどれだけ余計なことを経験するかが大事である。勉学だけはしっかりしたが、それだけの学生生活だったというのでは、なんとも空しい。

毎年秋に開催される大薬祭は、日頃の勉学の憂さを晴らし、学友と苦楽を分かち、多様な経験を積むのに、絶好の機会である。大学は、大薬祭を学生の自治に委ね、授業を休み、資金援助までしているのは、学園祭を人間教育の場と考えるからである。ただの祭りと浮かれるなかれ。大薬祭が終わった後に、何かを体得した充実感を味わってほしいものだ。

大薬祭の移り変わり

私は学生部長を、平成13、14年度と平成21、22年度に務めた。大薬祭を監督指導するのは、学生部と学生課の役割で、私は都合4回関わったことになる。2度の学生部長で、



間隔は10年に満たないのに、大薬祭にいくつか変化を感じている。

第一は、学友会執行委員会と大薬祭実行委員会のメンバーに、女子学生が多数を占めるようになったことだ。6年制になり、4年制時代より女子学生の割合が減ったのに、逆に委員に占める割合が大幅に増え、しかも活躍が生き生きしている。社会における女性の台頭が、等しく本学にも及んでいるようだ。

第二に、大薬祭が全般的に行儀よくなった。飲酒に対して、羽目を外さないかに神経をとがらせたものだが、今はその心配はほとんどない。また、「薔薇祭」は、品位に欠ける点で大薬祭の名物であったが、今はさながらダンスコンテストの様を呈し、一背前に当たり前だった際どい出し物は影を潜めた（その分、面白み(?)が減った)。そう言えば、他の出し物でもダンスが頻繁に登場する。短期間の練習にもかかわらず、男女を問わず誰もが玄人さながらに踊り狂う姿に、古い時代の私は見とれて放心するばかりである。

第三は、大薬祭が、学生の行事から、大学や卒業生も巻き込む一大行事に変貌したことである。大薬祭に「オープンキャンパス」が組み込まれ、受験生に大阪薬大を知ってもらう手段の一つとして活用されている。また、同窓会も、「ホームカミングデー」と銘打ち、卒業生が母校に足を運び、大学の現状に触れ、現役学生と交わる機会を設けておられる。特に今回は、6年制になって初めて学外実務実習が行



われたことから、薬剤師として医療現場で活躍中の卒業生、実務実習を経験した現役学生、それに本学教員が参加して、それぞれの立場から経験を発表するパネルディスカッションが開かれた。

評価と反省

学園祭は市民に開かれた催しである。幼児から若者、高齢者に至る参加者が、それぞれ楽しめるイベントを企画しなければならない。毎年同じ企画の繰り返しでは新味がないから、毎回、工夫が必要になる。グラウンドが芝生化されて車両の乗り入れができなくなり、今回は企画の見直しを迫られた。大葉祭実行委員会は、この制約を逆手に新しいイベントを考え出し、盛況裏に終えたことは評価に値する。

大葉祭の予算は、各方面からの援助をすべて加えると、かなりの高額である。学生部委員会は、実行委員会との懇談会で、予算案を承認し、決算報告も受けて、金銭出納が厳格に行われていることを確認しているが、大切な費用をできるだけ有効に使うしてほしいものだ。例えば、どこの学園祭もタレントを呼ぶ安易な集客が常態化しているが、大葉祭では入場チケットの売上げは、目標をかなり下回った。出演料は総支出の大きな部分を占めるため、適切なタレントの選定あるいは企画の練り直しが今後の課題だろう。その他にも無駄な出費がないか検証してほしい。また、模擬

店の決算は、出店したクラブに委ねているようだが、実行委員会が出店ごとの決算を正確に把握するよう改める必要がある。

総括すれば、大きな混乱やトラブル、飲酒事故や食中毒もなく、無事に大葉祭を終えたことは何より結構である。私個人に関して言えば、多くのイベントの中で一番楽しんだのは「ひとりのできるもん」さんの超絶技巧ダンスである。しかし、ダンスは一人でもできて、大葉祭は「ひとりのできないもん」である。大阪薬大に在籍する全ての人々が、陰に陽に係わる共同作業として成り立っている。大葉祭が大阪薬大に籍を置く人々の一体感の醸成にいささかでも資するものであったとすれば、これに勝る成果はない。

謝 辞

実行委員の皆さんの無償の働きぶりには、常に敬服している。運営のため、楽しんでもらうために、自身は楽しまず、雨の中を黙々と下支えに徹して働く姿に、頭が下がる。イベントを楽しんだだけの学生達より、獲得したものはずっと大きいはずである。第45回大葉祭を成功に導いた学友会執行委員と大葉祭実行委員の皆さんに感謝し、その労をねぎらいたいと思います。

最後になりましたが、資金面で援助をいただいた育友会、同窓会をはじめ広告掲載を通じて賛助いただいた各種団体各位に対し、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



学生部長 土井 勝

大阪薬科大学に特待奨学金制度があり、優れた学業成績または研究成果を挙げた者、あるいは、社会活動や学生自治活動等で顕著な功績があったと認められる者を表彰することになっています。この制度は、本学の創立百周年事業の一つとして創設されたもので、今回は第6回目の表彰に当たります。第6回特待奨学生は別表のとおりです。

奨学生の選考は、前年度の学業成績により、各年次（1年次を除く）の最優秀者1名、特別優秀者2名、優秀者4名を表彰します。大学院学生については、大学院1年次生は大学院入試の成績により上位3名が、大学院2年次と博士後期課程の学生は、研究成果のプレゼンテーションに基づき、大学院委員会が3名の研究成果優秀者を推薦します。

表彰式は、学部学生と大学院1年次生は5月21日（金）、

大学院2年次生と博士後期課程学生は10月28日（木）に行われ、矢内原理事長から奨学金が手渡され、続いて訓辞があり、また、千熊学長から祝辞がありました。

学生の本分は勉学に、院生の本分は研究にあり、これらの優秀者が表彰されるのは誠に喜ばしい。しかし、学力や研究力は人間力の一面でしかない。医療人となる学生、院生の皆さんが目指すべきは、人物が立派に成長することである。大学としては、学生、院生の皆さんが刺激し合い切磋琢磨することで、常連の表彰者には、多様な経験を積んで奥深く幅広い人物になることを、表彰が叶わなかった諸君には、特待奨学生に続々と新顔が登場することを期待したい。

平成22年度 大阪薬科大学特待奨学生（第6回） 表彰者一覧

学部学生（最優秀者1名、特別優秀者2名、優秀者4名の順）

| | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 2年次：松原 州平 | 山岸 一馬 | 山本 恵美 | 土居 真理 | 谷本香奈杏 | 岩崎 愛美 | 小崎 優美 |
| 3年次：大藤真由子 | 松原 侑紀 | 吉田 紗理 | 渡辺真梨奈 | 笈田 美里 | 西居 祐美 | 林 香菜子 |
| 4年次：安達 咲希 | 岩田知可子 | 浪本 寛也 | 吉開 晶一 | 湯藤 菜月 | 小野 朝香 | 山本 愛莉 |
| 5年次：小川 智子 | 林 春菜 | 谷川 真未 | 佐藤 真穂 | 向井優太郎 | 延命寺麻衣 | 西村 由香 |

大学院学生

修士課程1年次：多田羅絢加 松田 隆志 森重 雄太

修士課程2年次及び博士後期課程：原田 悠耶 矢崎 美里 今與 琢士 鈴木香菜代



特待奨学生表彰式



成績優秀者特待奨学生



大学院学生による研究成果発表会



研究成果優秀者特待奨学生

1. はじめに

大学における教育の質保証がこれまで以上に問われている現代において、多くの大学と同様、本学でも「大学教員の教育活動の計画・実施および点検・評価とその結果に基づいた改善・向上を図る」ために様々な委員会が設置され、それぞれの活動を展開しています。その一環としてファカルティ・ディベロップメント(FD)活動があります。この活動は、「教育の質的向上に向けて、教員による授業内容とその方法を改善するための組織的な取り組み」を実行することですが、現在本学で行っているFD活動は学生による授業評価と教員相互による授業評価を基盤としたものであり、それぞれの意見を聴取するために授業評価アンケートや公開授業を継続的に実施しています。授業評価アンケートは、これまで教務部および教務課が中心となって行われてきましたが、本年度からFD委員会に移管されたため、本委員会では、公開授業やその後に行われる授業研究会に加え、授業評価アンケートの企画・実施についても取り組むことになりました。



2. 学部FD活動

授業評価アンケートに関しては、昨年まで授業担当者あるいは演習・実習担当者自身が評価アンケート用紙を配布・回収していましたが、本年の前期授業からは、評価アンケートの重要性に鑑み、また、その客観性を高めるための方策として、同僚教員がアンケート調査の重要性を学生に伝えた上で、アンケート用紙の配布と回収を実施することにしました。結果として、前期授業におけるアンケートの回収率は、全学年で72.4%となり、従来(平成18年度58.7%;平成19年度61.4%;平成20年度63.8%;平成21年度64.7%)に比べて上昇しました。さらに、アンケート用紙の自由記載欄への記述も多くなり、学生からの意見が授業活動の改善と向上に反映される機会が増えているように思います。このような授業評価アンケートの全体的な解析結果は、学生用掲示板および本学のホームページに公表しています。また、学生へのフィードバックが十分に出来ているとはいえませんが、学生が科目毎のアンケート結果とそれに対する授業担当教員の所見を教務課カウンターで閲覧できるようにしています。



3. 大学院FD活動

本学の学部教育では、教員指導法の改善を推進するための方策の一つとして、上で述べたような学生による授業評価アンケートを継続して行ってきましたが、学部教育と同様、大学院教育においても授業評価を行うことが教員の資質向上を図るための重要で最も基本的な取り組みになるであろうと考え、新たに設置された薬学研究科薬科学専攻の教育課程では、本年度前期より授業評価アンケートを実施し、担当教員が教育の内容・方法を点検するための資料として利用しています。また、新たな大学院教育課程では、講義・実習に加え、問題解決型思考と能力並びに研究関連コミュニケーション(口頭発表・討議・討論)能力の育成を図るPBL(Problem-Based Learning)型の演習が行われています。今後、PBL演習を成功させるためには、大学院生による評価が必要不可欠であり、これに基づいて大学院担当教員がPBL演習をより良いものに改善していく必要があると考えています。

4. おわりに

現在、本学は関西地区FD連絡協議会に参加しています。この連絡協議会には関西地区の約130校の大学が入会しており、協議会を通してFDに関する様々な情報交換を行っています。国公立大学や総合私立大学の中には、教育支援センター等に所属する教育専門教員がFDを含めた教育活動を推進していますが、本学のような規模の大学においては、それぞれの事情にあったFD活動をコツコツと行っている様子が窺われます。本学でFD活動が始まって3年が経過しました。これまでのFD活動は専門のファカルティ・ディベロッパーによって進められてきたものではありませんが、これからも多くの情報の中から本学に適した方略を収集しながら、必要なことから一步一步FD活動を進めていきたいと考えています。今後とも、本学の学部・大学院教育とその改善のために、教職員・学生の皆様にはFD活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

CBT実施部会責任者 井上 晴嗣

この学報が発行される頃には本学でCBTの本試験が行われていることと思います。ここでは、CBTの実施状況と平成22年8月24、25、26日の3日間に行われたCBT体験受験について報告いたします。

◆CBTの実施状況について

6年制の薬学教育制度に課された長期実務実習に参加するためには、薬学共用試験で一定の基準を上回る成績を修めることが必須要件となります。薬学共用試験は、「知識および問題解決能力を評価する客観試験」(Computer-Based Testing: CBT)と「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験」(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)から構成されており、全国薬科大学長・薬学部長会議のもとに設置された薬学共用試験センターにより実施されます。

CBTでは五者択一問題として、合計310問がゾーン1～3の3ゾーン(各ゾーン2時間の試験時間)に分けられて実施されます。解答は、紙やマークシートではなく、CBT受験用ソフトを用いて、パソコンの画面上で正解と思われる番号をマウスでクリックしていくことによって行われます。

CBTの出題内容は、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」および「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠しており、(表1)に示すような出題配分で出題されます。平成17年10月から3期に渡って、コアカリキュラムの991の到達目標(SBO)に対して、全国の薬科大学・薬学部、および日本薬剤師会と日本病院薬剤師会に問題作成が依頼され、合計29,083問のCBT問題が集められました。これらのなかから、最終的に8,618問が精選されて薬学共用試験センターにプールされています。平成21年度のCBT本試験では、このうち重複を避けた3,000問から各学生にランダムに出題されました。

正答率60%以上(310問中186問以上の正解)で合格とされ、本試験でこの基準に達しないものには再試験が課せられます。追・再試験の合格基準も正答率60%以上です。平成21年12月24、25日に行われた昨年度の本学のCBT試験では幸いなことに全員が本試験で合格し、平成22年2月24日に予定していた追・再試験を実施する必要がなくなりました。

(表1)

| 出題分野 | 出題数 | ゾーン |
|-------------------|-----|-----|
| ヒューマニズム・イントロダクション | 10問 | 3 |
| 物理系薬学 | 30問 | 1 |
| 化学系薬学 | 40問 | 1 |
| 生物系薬学 | 35問 | 1 |
| 健康と環境 | 40問 | 3 |
| 薬と疾病「薬理系」 | 55問 | 2 |
| 薬と疾病「薬剤系」 | 35問 | 2 |
| 薬と疾病「情報系」 | 15問 | 2 |
| 薬学と社会 | 20問 | 3 |
| 実務実習事前学習 | 30問 | 3 |

◆CBT体験受験について

CBT体験受験は本試験と同様の要領で対象学年の学生が「体験的に」受験する制度であり、本学では、平成22年8月24日から、薬学科4年次生285名を95名ずつ3日間にかけて、D棟コンピューター演習室で実施しました。13名が欠席または早退しましたが、272名がすべてのゾーンを受験し、トラブルもなく無事に終了しました。

CBT体験受験には受験生、実施大学、共用試験センターそれぞれにメリットがあります。受験生としては、CBT受験の練習となり、CBT受験に慣れることができます。また、体験受験では実際の試験と共通のプール問題が310問中70%出題されるので、体験受験時の自分の学力レベルを知ることができます。実施大学としては、CBT受験のトライアルができることにより本試験での実施上のトラブルを未然に防ぐことができます。共用試験センターとしては、体験受験を通じて310問中の30%程度の新作問題や再検討問題の正答率を評価できます。

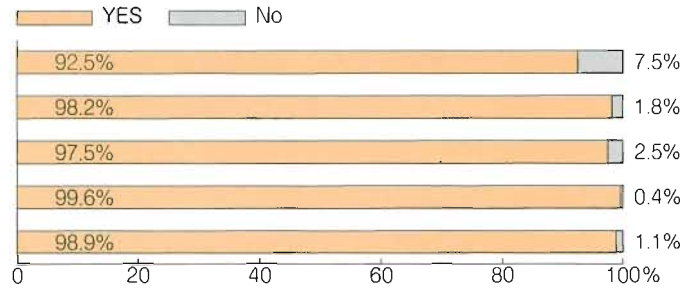
CBT体験受験の受験料は一人あたり5,000円ですが、本学では大学が受験料を負担し、4年次対象学生全員がCBTを体験できるよう配慮しています。体験受験の全国平均点や本学の平均点等については、共用試験センターとの遵守事項に抵触する可能性がありますので公開できませんが、体験受験の時点では物理系薬学、薬剤系、社会薬学、および実務実習事前学習以外のすべての分野において、本学の受験生の平均値が全国平均値よりも下回っていました。昨年の学生がCBT本試験で全員合格したため、ほとんどの学生がCBTを安易に考え、CBT対策のための勉強を始めていないため、全国平均を下回る結果になったのではないかと考えています。CBT実施部会としては、平成23年2月25日に予定しているCBT追・再試験を実施しなくて済むよう、学生諸君に頑張ってくださいと願っています。

なお、参考までに、当日、試験終了後に実施したCBT体験受験に関するアンケートの結果を次頁に示します。

CBTアンケート結果

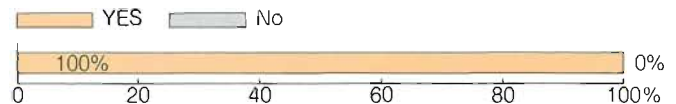
【試験が始まるまで】

1. 受験票はスムーズに入手できましたか。
2. パスワードはスムーズに入手できましたか。
3. 学生証による本人確認は実施されましたか。
4. メモ用紙とボールペンはスムーズに入手できましたか。
5. 試験開始前の説明はわかりやすかったですか。



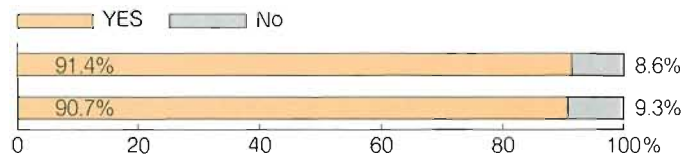
【試験時間について】

6. 定められた時間に試験が始まりましたか。



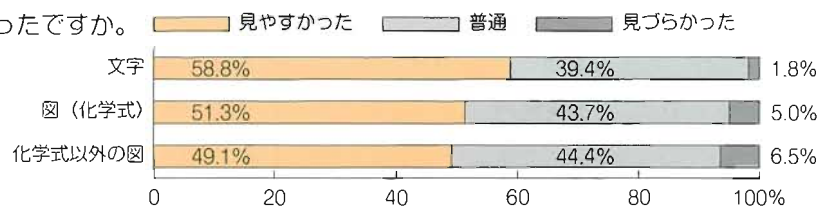
【休憩時間について】

7. 昼食の休憩時間は適切でしたか。
8. 午後の休憩時間は適切でしたか。

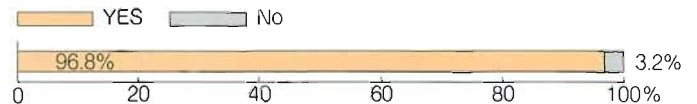


【試験問題について】

9. コンピューター画面での試験問題は見やすかったですか。

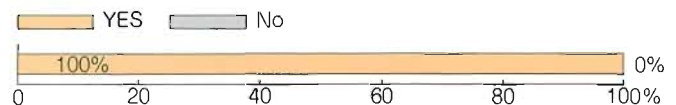


10. コンピューター画面の明るさは適切でしたか。



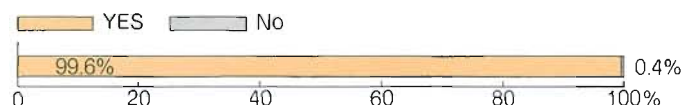
【試験監督について】

11. 試験の監督は適切に実施されましたか。



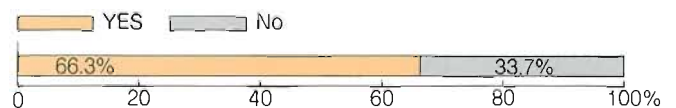
【試験の終了について】

12. 試験はスムーズに終了しましたか。



【体験受験の実施時期について】

13. 体験受験の実施時期は適切だと思いますか。



【自由記入欄】

- ① 体験テストは無料にしてほしい。
- ② 時期は11月にしてほしい。
- ③ 夏休みに実施するのはやめてほしい。
- ④ 毎月やってほしい。
- ⑤ 成績を一般公開しないでほしい。
- ⑥ 今やるのは無駄です。
- ⑦ 文字の大きさを変えられるようにしてほしい。
- ⑧ いろいろ高い。
- ⑨ 特にない。

平成18年度より新たに始まった薬学教育6年制においては、病院、薬局での長期実務実習（通常、5年次に実施）が課されています。そして、本制度では、この長期実務実習を行う薬学生は、実習のために必要な基礎的知識、および技能・態度を有していることの確認のため、実習前に、学内にて「薬学共用試験」（通常、4年次に実施）を受験して合格することが必要となります。なお、共用試験には2種類あり、知識を評価する試験はCBT（Computer-Based Testing）、技能・態度を評価する試験はOSCE（Objective Structured Clinical Examination）と称され、通常は別日程で行われます。本学においては、平成21年度に新教育課程の第1期学生が4年次に進級し、初めての共用試験が行われました。以下には、このうちのOSCEの実施状況について報告いたします。

表1には試験（本試験）実施の概要についてまとめました。学生は、5つの領域からの合計6種の課題（表1最下欄参照）を受験しました（各課題の試験実施時間は5分で移動時間等を含めると9分）。なお、試験はこれら各課題について、同時に8名の学生に対して8つの場所（8レーン）で行われました（全6課題の48レーンで合計48名の学生が同時に受験）。学生の試技は、各レーンにつき2名の評価者が担当し、定められた評価表にもとづき評価（細目評価と概略評価）を行いました（同時に96名の評価者が評価）。また、6課題のうち、「薬局での患者対応」および「病棟での服薬指導」については、模擬患者（SP）も必要であり、その多くを、本学近隣の市民の方々による本学SP会や本学事務職員の方々にご協力いただきました。試験は、開始直後に学生のレーン間移動の動線に若干の交差がありましたがすぐに修正を行い、概ね問題なく予定通りに終了いたしました。

OSCEの結果については表2に示しますが、本試験では受験者225名のうち、2名が不合格となりました（いずれの学生も1課題についてのみ不合格）。これら学生については、不合格課題について別日程で再試験を行った結果、いずれも合格となりました。

表1 平成21年度OSCE本試験実施概要

| | | | |
|-------------------|--|-------|-----|
| 実施日 | 平成22年1月24日 | | |
| 実施時間 | 8:00~17:00 (試験 10:00~12:10、13:10~16:30) | | |
| 試験場所 | D棟2階 | | |
| 受験学生 | 4年次生 225名 | | |
| 評価者・ ステーション責任者 | 学内（大阪薬科大学） | 44名 | |
| | 学外 | 大学 | 52名 |
| | | 病院 | 3名 |
| | | 薬局 | 3名 |
| 模擬患者（SP） | 学内（大阪薬科大学） | 31名 | |
| | 学外 | 大薬SP会 | 21名 |
| | | SP研究会 | 4名 |
| スタッフ | 30名* | | |
| 試験領域（課題**） | 患者・薬局者対応（薬局での患者対応）、薬剤の調製（散剤調剤および計数調剤）、調剤鑑査（調剤薬鑑査）、無菌操作の実践（注射剤混合）、情報の提供（病棟での服薬指導） | | |

*他に学生TA 70名 **内容は薬学共用試験センターから指定される

表2 平成21年度OSCE合否結果

| | 実施日 | 受験者数 | 合格者数 | 合格基準 |
|------|----------------|------|------|----------------------|
| 本試験 | 平成22年 1月24日 | 225名 | 223名 | 細目評価70%以上 概略評価5以上 |
| 再試験* | 平成22年 2月27日 | 2名 | 2名 | |

*本試験で不合格となった領域の課題（類似課題）のみについて実施

【OSCE体験学生からのコメントー実務実習を経験して】

◎私は、OSCEを受験したことにより、薬剤師業務の基礎をしっかりと学ぶことが出来たと思います。調剤手技や患者さんとのコミュニケーションの取り方の基本を身につけられたことは、実務実習で大きく役立ちました。具体的には、調剤業務をするにあたり基本操作は身につけていたため、操作だけに集中することなく処方意図などの他の視点にも留意でき、また、服薬指導ではOSCEの基本的な手順に基づいた上で実践的な肉付けをしていく形を取れたため、早く慣れることができたと思います。
(5年次生 荻野 恵)

◎『OSCEで問われるのは実務実習で必要とされる最低限の技能と態度』－これは私が実際に実務実習を経験して感じた事です。例えば、皆さんは、おそらく現場の服薬指導では、OSCEでのように「それはお辛いんですね」と言う人はいないだろうと思っていますし、実際に私も実務実習ではそのような言葉を聞きませんでした。しかし、言葉には出しませんが薬剤師さんは態度の中で共感を示していました。また、服薬指導において、OSCE以上に専門的な知識を求められる状況も多々あります。さらに、OSCEおよびその対策演習では模擬的な設定ばかりで、なかなか実際のイメージが湧かないかもしれませんが、そこで学んだ考え方は実務実習で確かに使えるものもあることは事実であると思います。
(5年次生 影林 優一)

◎私は長期実習に出る前、OSCEで問われる技能・態度については、実際のところ臨床現場ではそこに根付いた方法に従うのではないかと不安に思っていました。しかし、手技の際に注意しなければならないポイントや服薬指導の際のopen questionをはじめとする会話のノウハウなどは現場でも大いに役立てることができました。また、疑義照会の際の話の切り出し方や、病棟指導時の入室の際の接遇などもOSCE対策演習で培われたと感じています。
(5年次生 庄司 雅紀)

◎OSCEとその対策演習の経験は、私の実務実習にとって大変に役立つものでした。例えば、実務実習においては、患者さんを待たせず、かつ正確な調剤が必要となるので、OSCEのように時間制限があることを意識した調剤の練習は有用でした。服薬指導については、OSCEのために練習したおかげで、それほど緊張せずに行うことができました。患者さんから様々な情報を聞き出すことや、薬をわかりやすく説明するのは、なかなか上手くできませんでしたが、大きな声ではっきりと話すということはOSCEで学んでいたので身につけていました。これからは、もっと勉強し、OSCEで学んだことを活かしつつ日々成長したいと思っています。
(5年次生 西田真由美)



生薬科学研究室

生薬科学研究室は3名の教員（教授：馬場きみ江、准教授：谷口雅彦、講師：芝野真喜雄）を中心に、大学院生1名、研究生1名、薬学科5年次生11名の総勢16名で教育、研究に励んでいます。さらに、来年度には新5年次生として14名を迎える予定です。

研究テーマは多岐にわたり、学生がそれぞれのテーマに責任を持ち研究を進めています。以下に研究テーマについて簡単に紹介します。

1. セリ科植物についてクマリンを中心としたフェノール性成分を探索し、その構造決定と活性調査を行っています。当研究室の中国との学术交流も今年で23年になりますが、近年は、当研究室に留学経験がある中国科学院江蘇省植物研究所の王年鶴教授との共同研究で、雲南省で採集した貴重なセリ科植物を実験材料としています。最近のヒットは、チトクロムP450、P糖タンパクに強い阻害作用を持つフラノクマリンの二量体～四量体を単離、構造決定したことがあげられます。
2. ジンチョウゲ科植物についてフラボノイドを中心としたフェノール性成分を探索し、その構造決定と活性調査を行っています。クマリン成分の探索から始まったジンチョウゲ科植物の研究ですが、非常にユニークな構造をしたフラボノイド二量体が数多く得られて来ました。これが、1つの実験テーマにつながった経緯になります。しかし、これらの化合物は、分離精製が非常に大変で、現在は、これを扱っている学生はおりません。このテーマにチャレンジしようとする学生さんを募集しています。
3. ラットやマウスを用いた活性試験では、大量の活性成分が必要となります。そこで、含有植物を大量に扱うことにより、活性成分の大量分取を行っています。現在は、生活習慣病に効果のあるアシタバ（セリ科）からはカルコン類の4-ヒドロキシデリシン、キサントアンゲロールを、また、花粉症に有効と話題になっているジャバラ（ミカン科）からは活性成分とされているフラバノン配糖体のナリルチンなどをそれぞれ大量に精製しています。少量だと比較的簡単に精製できるものでも、大量になるとひと苦労です。そして、目的化合物が急に必要な時（外部との共同研究機関との関係では、学生総動員で単離に協力してもらっています。（学生の声：単離の締切日を急に言われたので大変でした。）
4. 様々な薬用植物から水可溶塩基性成分を探索し、その構造決定と活性調査を行っています。水抽出とイオン交換樹脂による分離精製を試みているため、濃縮などすべての工程に多くの時間を要し、時間と根気が必要な実験です。しかし予想もしなかった骨格の化合物に出会えることが励みになっています。（学生の声：新規化合物に名前を付けることを楽しみに実験しています。）
5. ジギタリスなどの強心ステロイド配糖体は有名ですが、これらの化合物は強力な抗腫瘍活性を有しています。将来、このようなステロイド化合物をシード（種）化合物とした新規抗癌剤の開発が行われるかもしれません。そこで、新しいタイプのNa-K ATPase阻害活性成分を探索しています。（学生の声：酵素阻害実験が上手くできるようになりました。新規化合物を見つけたいです。）
6. 重要生薬である甘草の国内生産に向けた基礎研究を行っています。最近話題のレアメタルも脱中国依存へと方向転換されていますが、甘草もほとんどが中国からの輸入のため、レアプラントとも呼ばれ、私達の研究が注目を浴びるようになりました。常に色々なアイデアを出しながら薬用植物園で実験を進めています。（学生の声：カンゾウの収穫は大変ですが、私達の関連研究が新聞に掲載されて励みになります。）
7. その他、石斛や紫雲膏などをテーマにした研究を行っています。



みなさんの中で、このようなテーマに興味があれば、気軽に研究室を訪問してください。お待ちしております。

このように、多くのテーマで研究をしていますが、時間の合間に薬用植物園を見学したり、近隣の植物園へ見学に出かけたりもします。本年度に予定していた中国への生薬見学の旅が中止となり5年次生もガッカリしていましたが、来年度は絶対に実現しようと予定を皆で調整しています。

6年制薬学科の学生が中心の研究室ですが、研究生活から研究の楽しさや自ら学ぶ姿勢、物事を進める考え方、文献の集め方など、たくさんの事を研究室で学んでほしいと思っています。

生体防御学研究室

生体防御学研究室は、2007年に前身の生理機能化学研究室（旧衛生化学研究室）から名称変更して開設され、天野富美夫教授が主宰し、同年に藤森功講師が着任しました。研究室はB棟3階にあります。研究室員は博士課程1名、修士課程7名、学部学生（5年次生）11名であり、4月からはさらに薬学科の新5年次生が14名と薬科学科（4年制）の学生2名が加わることになっています。研究テーマは、大きく分けて2つの領域からなっており、天野教授の細菌とがんに対する生体防御に関する研究と藤森講師の脂質メディエーターの産生調節と代謝疾患制御に関する研究です。

私たちのからだには外界からの様々な刺激やストレスに対しても、また生体内で起こる生理的あるいは病的な変化に対しても、適切な応答をして恒常性の維持をする機構が備わっており、天野教授は、細菌やウイルスの感染、放射線や環境化学物質の曝露、あるいは発がんなどに対する応答性を、生体防御の中心を担う細胞の一つであるマクロファージの働きに注目して研究しています。さらに、これに関連して、免疫系の調節機構、細菌の病原因子、がん抗原の分離精製など、様々な研究を展開しています。

藤森講師は、脂質メディエーターの一つであるプロスタグランジンの産生制御と生体内における機能解明と代謝異常疾患、特に肥満に関する研究を行っています。脂質メディエーターは生体内において様々な生理機能を有していることが知られていますが、それら生理機能の発現における脂質メディエーターの機能と制御について研究を行い、疾患制御に役立てたいと考えています。また、現代人の健康を脅かしている動脈硬化症やメタボリックシンドロームの発症原因となる脂質代謝異常や脂質蓄積の分子制御機構についての研究に取り組んでいます。

生体防御学研究室では、配属される学生は、それぞれ独自の研究テーマを担当し、調査・研究を行っています。学生曰く、学部生のときから個々に研究テーマをもち、主体的に研究を行っているそうです。セミナーや日々のディスカッションでは、教員のみならず、異なる研究を行う学生からの指摘によって問題解決のヒントが得られることもあります。また、研究成果を論文や学会で発表する機会も多く、大きなやりがいを感じているそうです。毎週金曜日に行われる研究室セミナーでは、それまでの研究の進捗状況や問題点を発表し、議論することにより、発表の練習と自分の研究の進め方について考える機会となっています。学生にとって良い経験（訓練？）になると思っているのですが、慣れるまでが大変なようです。しかし、慣れたころには規模の大きな学会の口頭発表でも十分通じるくらいに上達しています。また、研究により得られた成果は積極的に論文として発表するとともに、学会等で発表しています。そして、学外の研究者と交流をはかり、意見交換することによって研究の遂行に役立てています。薬学教育6年制開始により、6年制の学生が研究に従事できる時間は以前より減っ

ていますが、持っている時間をより効率よく使うなどの工夫によって研究を行い、今年度は5年次生3名が学会で研究成果を発表しました。

生体防御学研究室では、分子レベルでの解析を通じて、ヒトでの検証まで持っていきけるよう、学生と力を合わせ研究していこうと考えています。研究室員は生命科学や医療分野において貢献する知識と経験を持ち、また研究をさらに発展させ、“世界をリードする研究”を行うことを通じて、生命現象の解明と医療への貢献をすべく日々研究に取り組んでいます。



図書館長（資料室長） 三野 芳紀

(故)有田浩和理事よりの寄贈

平成22年7月(故)有田浩和理事より、資料展示室へ貴重な品々をご寄贈頂きました。資料、書類、図書など計90点余りにも上り、何れも歴史的にも学術的にも価値のあるものばかりです。資料展示室は、創立100周年記念事業の一環として、「本学の歴史を思い起こさせる施設が本学のどこかに必要では？」との有田氏の発案から設立された経緯があります。有田氏は、当時、理事（同窓会会長）として同記念事業委員会の委員に就任され、資料展示室の設立に中心的に貢献されました。本学独自の資料だけでは数が十分ではなかったこともあり、有田氏は、個人所蔵のコレクションの中から、生薬、江戸時代の薬袋、医薬書などの貴重な資料を快く提供してくださいました。そのお蔭で、多

くの見学者の目を楽ませることができる立派な資料展示室として、皆様から高い評価を得ています。有田氏から提供頂いたこれら資料は、これまで無償貸与となっていました。このたび正式にご寄贈頂いたところです。

有田氏は、平成22年8月下旬、惜しくも若くしてご逝去されましたが、当資料展示室では同氏の意思を引き継ぎ、寄贈の品々を分かりやすく配置し、また、今後も資料展示室の貴重な財産として末永く展示させて頂く所存であります。皆様方におかれましては、一度ご来室頂き、「母校を愛する有田氏の心意気」を感じて頂ければ幸いです。

有田氏のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。



就任のご挨拶



生化学研究室
教授 福永 理己郎

平成22年11月1日付で生化学研究室の教授として着任いたしました福永理己郎（ふくながりきろう）と申します。私は昭和56年に京都大学理学部化学科を卒業し、大学院を含む7年間を京大ウイルス研究所で過ごした後に、大阪バイオサイエンス研究所、米國ソーク生物学研究所、大阪大学医学部、京都大学医学部にて研究と教育に従事して参りました。この間、インターフェロンや造血サイトカインの作用機構、免疫細胞の増殖と分化の分子機構など、基礎医学に近い分野を主な研究テーマとして参りましたが、大学時代は有機化学と生物化学のどちらに進むか大いに迷いました。今また有機化学を主要な柱の一つとする薬学部に身を置くことになり、右も左も私にとって興味深い環境となりました。

20世紀後半の分子生物学の時代を経て、21世紀はヒトゲノム解読を皮切りに新しいライフサイエンスの時代に突入いたしました。将来の薬剤師や生命科学研究者として21世紀を担う本学学生に分子医科薬科学の根幹である生化学と分子生物学をしっかりと理解・習得させることが、生化学教育担当者の重要な責務であり、また大きな喜びでもあります。本学の教壇に立つに当たり、私自身が薬剤師としての教育や経験を得ていないための不利やジレンマを感じる場面もあるでしょうが、逆に、専門家とは異なる発想や思考法を取り得る自由度を自らの長所とすべく、本学の教育に貢献できるよう尽力したいと思っております。

研究においては、細胞の増殖や分化を制御する普遍的メカニズムを分子レベルで明らかにすることを目標に据え、発がん機構の解明や再生医学への貢献を目指していく中で、大阪薬科大学の研究をさらに盛り上げてゆく一翼を担いたいと考えております。皆さまのご支援・ご指導を何とぞ宜しくお願い申し上げます。

学生相談室相談員 小田 佳子

2010年10月より学生相談室の相談員を務めさせていただくことになりました小田佳子と申します。よろしくお願いたします。新しい職場で勤務するにあたって、まず相談室のこれまでの活動の様子を知りたいと思い、さかのぼって記録を見てみました。大阪薬科大学の学生相談室は、開設されてちょうど10年になります。部屋の雰囲気づくり、開室曜日や時間帯、広報活動など相談室に関するさまざまなことは、学生へのアンケート調査結果や運営にかかわる方々のご意見を取り入れながら、学生である皆さんのために丁寧に作り上げられてきたことを理解しました。それでは、その相談室で相談員は何かができるのでしょうか。相談員は学生である皆さんの悩みを解決するお手伝いをさせていただくことが主な仕事内容となるのですが、このことは前回の学生相談室だよりで火曜日の相談員の原先生が非常にわかりやすく丁寧に説明くださっていますので、ぜひもう一度お読みください。

さて、これまで臨床心理士として私は、小さなお子さんからご年配の方までさまざまな年齢の方にお会いしてきました。心理相談室の置かれている機関によって、相談に見える方の年齢や様子は随分変わってきます。大学の学生相談室の場合ですと、利用される方のほとんどは学生です。教職員の方や保護者の方が見えられる場合もあります。

大学生といえば年齢は10代後半から20代。まっただ中にいるとわかりにくいものですが、体つきはほぼ大人と同じになり、社会の中では大人としての責任を求められ始め、内面は大人のように大人でない、子ども時代の最終段階ともいえる微妙な時期です。心の発達という側面から見ると、この時期には「本当の自分とは何か」「自分は何をやりたいのか」というような「独自の自分」を作り上げようとする心の働きが始まります。親・兄弟、友達をはじめとするさまざまな人間関係、進路の決定、生活スタイルの選択などを通じて、自分の独自の役割や自分の独自の価値観、信念を見つけようとあれこれ模索しながら、「これが自分だ」「自分はこれでいい」「自分はこれでやっていこう」というものを、うっすらとでもつかんでいこうとしていきます。

しかし、あれこれ模索する中で不安になったり、戸惑ったり、孤独な感じがしてきたりすることもあります。もちろん人によって感じ方の違いはありますが、時には耐えられなくなって、何もできなくなったり、すっかり人まかせにしてしまったり、逃げ出してしまいたくなったりすることだってあります。

大学時代を心の発達の側面から見ると、なにやら大きな課題があるように思えてきますが、いつも意識して取り組むというものでもありません。日々の生活を送りながら、さまざまな事態に向き合い、模索しながら解決していく中で、知らず知らずのうちに乗り越えているということもあります。しかし、解決の糸口は自分の中にあるとはいえ、なかなか見つけられないことがあってもおかしくあり

ません。そっと話してみたいこと、一緒に考えてみたいことが出てきたら、どうぞ相談室にお越しください。相談室でお待ちしています。



学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



原 祐子相談員



小田佳子相談員

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00

TEL：(072) 690-1077（直通）

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



平成22年度大薬祭実行委員長 池ヶ谷 貴之

今年の第45回大薬祭の実行委員長という仕事を行うにあたって、私が一番心がけたことは「自分が来なくなるような学園祭にする」ということでした。実際に、ここ2、3年の大薬祭は、楽しいけれどもイベント内容に変化がみられず、変わり映えのないものという印象を受けていました。そこで私は、毎年来ていただいている地域の方々や本学の学生、先生方にも「おっ、今年は違うな」と言わせてやろうという気持ちで、学祭当日までの約半年の間準備をしてきました。

「変革」というと大袈裟でしょうが、学祭を例年より面白くするために様々なものを変え、また新しいものを取り入れていきました。まず目立ったところの変化でいいますと、やはり「3日間続けてのゲストの来場」でしょう。1日目に芸人で2009年M-1王者の「パンクブーブー」さん。2日目に俳優の「塚本高史」さん。3日目にプロダンサーの「ひとりでもできるもん」さんに来ていただきました。今までタレントさんは学祭の2日目だけにしか呼んでいなかったのですが、これを学祭期間中の3日間、違うタイプのタレントさんと呼ぶことによって、幅広い層の方々に楽しんで頂き、また毎日来て面白い学園祭にすることができたと思います。2日目は例年通りの成功を収め、特に1日目、3日目の来場者数が格段に増えたことや、学生部長の土井勝先生が満面の笑みでパンクブーブーさんの漫才をご覧になっているのを見たとき、3日間呼んでよかったなと心から思いました。

もう一つ皆さんの目をひきつけたものがあつたと思います。空気で膨らまし、乗って遊べる巨大海賊船です。こちらは業者さんから3日間レンタルしたもので、親子連れの方が多く大薬祭では多くの方に喜んでもらえらと思ひましたし、第45回の大薬祭のテーマにも沿っていたので取り入れてみました。当日の3日間は思っていた以上の大盛況で、お子さん連れの方々が列を作るまでの賑わいを見せていました。何人もの親御さんから、「これを楽しみに来た」「来年もやってほしい」というお声をいただきました。一人で9回乗ったお子さんもいたほどです。

しかし、困ったこともありました。今年からグラウンドの全面芝生化に伴い、駐車場のスペースが無くなってしまったことです。この問題が一番のネックで、数多くの



問題点が起きました。単に来場者数が減るだけではないのです。まず、毎年の学祭恒例の「フリーマーケット」の開催が困難になったことです。例年100ブース近い規模のフリーマーケットでは、出店者様の車での荷物運搬が必要になってくるからです。グラウンドのスペースは有り余っているのに、フリーマーケット



ポスターイラスト：
3年次生 藤原 千明

の規模を縮小するしかなくなりました。これも今年では出来なかったものを、地域の方々からの強い要望により何とか開催にまでもっていきました。

また、車での来場が出来なくなったのは今年からです。例年通りに誤って車で来られてしまった方への対処、違法駐車への対処などが増える一方、先ほど述べたようにグラウンドのスペースは有り余っていますので、ここをどうにかして埋めなければ学祭が盛り上がりを見せているように見えません。巨大海賊船とフリーマーケットだけでは寂しすぎたのです。何かをしたい…しかしお金は無い！何とかならないかと試行錯誤して思いついたのが「沖縄物産展」「植木市」「似顔絵描き」「カラーセラピー」でした。

これらは、スペースをお貸しするだけで各々の方々がお店をしてくれるので、出展料やレンタル料がかからないのです。プロの方々が出すお店ですので、見た目にも美しく、空いたスペースを埋め、なおかつお金がかからない、私たちにとってはこれ以上に無い選択でした。各お店とも大好評だったようで、沖縄物産展では1日目の実演販売用のソーキンバが売り切れたり、植木を鉢ごと買って行く方がいたり、似顔絵、カラーセラピーにも行列ができたりと、賑わいをみせていました。

この他にも、表立った変更だけでなく、各イベント内容、地域の方々に配るビラ、保険や業者の見直し、装飾品の飾りつけなどなど、目に見えないところでも、今年の学祭に来ていただいた方々に少しでも楽しんで、思い出という宝物を持って帰っていただけるよう、総勢134名の執行部員が寝る間も惜しんで案を出し、また当日働いておりました。その甲斐あって、今年の大薬祭は大成功を収めることが出来ました。

今年の学祭がこれだけの成功を収めることができたのは、私達執行部員だけの力では決してなく、理事長はじめ、学生部長、諸先生方、学校関係者の皆さま、毎年援助金をいただいている同窓会、育友会の皆さま、その他にもここには書ききれないほどの方にお世話になりました。最後になりましたが、このような形で大変恐縮ではございますがこの場をお借りしまして一言お礼を言わせて頂き、終わりにしたいと思います。

本当に、ありがとうございました。

総務課

■人 事

<大学関係>

採用（平成22年11月1日付）

教授 福永 理己郎

併任（平成22年11月8日付）

大学院博士後期課程担当教員 福永 理己郎（教授）

客員研究員（平成22年11月1日付）

北村 一泰

招へい教授（平成22年11月1日付）

北村 一泰

<法人関係>

理事就任（平成22年12月1日付）

織田 美夫

■学位記授与式

平成22年9月30日（木）午前11時30分より大会議室において、平成22年9月学位記授与式（薬学科6名、生命薬学科5名 計11名）が挙行されました。



● 地域連携

高槻市主催「健康たかつき21」に出展

平成22年11月4日（木）に高槻現代劇場において「健康たかつき21シンポジウム」が開催され、市内の企業や大学等の健康への取り組みについての活動展示会があり、本学も出展しました。他に漫才師の宮川大助・花子さんの闘病体験をもとにした講演やトークショーもあり、ご来場の方々に健康の大切さについて改めて認識していただく絶好の機会となりました。



本学のテーマは「ロハス」

高槻市主催「食育フェア」に出展

平成22年11月14日（日）に高槻市立第一中学校において「食育フェア2010」が開催されました。市内の企業及び関係団体等による食育啓発ブースに本学も「食と安全」をテーマにパネル出展し、市民の方へ情報発信しました。当日は、食に関するクイズ大会や隣接会場で高槻市農林業祭も開催され、大変な賑わいとなりました。



高槻市主催「市内5大学リレー講座」に参加

平成22年12月11日（土）に高槻市立総合市民交流センターにおいて「市内5大学リレー市民講座」が開催されました。今年度は「地域と大学が連携したまちづくり」をメインテーマに各大学の講師が大学の特色を活かしたまちづくりへの取り組みについて講演を行いました。本学からは三野芳紀教授（薬品分析化学研究室）が「環境浄化と健やかなまちづくり」をテーマに実演を交えた興味深い講演を行い、大変好評でした。



本学は今後も高槻市の各事業に参画し、市の発展のために協力していきます。

平成22年度麻薬・覚せい剤等乱用防止運動大阪大会に参加

平成22年11月14日（日）に平成22年度麻薬・覚せい剤等乱用防止運動大阪大会が開催され、本学から4名の学生が参加しました。アメリカ村三角公園（中央区）からのパレードでは他の大阪府内薬系大学の学生と共に「ダメ！ゼッタイ！」を合い言葉に薬物乱用防止を訴えかけ、通行人にステッカーを配付するなどして大阪ミナミの街を練り歩きました。

厚生労働省大臣官房審議官（医薬担当）の平山佳伸氏が参加された大会式典では、パレードに参加した薬学生たちが薬物乱用防止大会宣言を行い、今後も薬物乱用防止の啓発に積極的に取り組むことを誓いました。



● 附属薬局健康講座

学校法人大阪薬科大学附属薬局では、平成21年度より患者さま向けの「健康講座」を開催しています。平成22年10月16日（土）には「認知症の知識と予防」をテーマに第7回健康講座を開催し、患者さまをはじめ多くの市民の方にご参加いただき、盛況裏に終了しました。

附属薬局では、患者さまからのアンケート結果をもとにテーマを絞り、患者さまに分かりやすい講演を今後も継続していく予定です。



● 研究管理支援室より

平成22年度実験動物慰霊祭について

平成22年12月15日（水）12時20分よりC105講義室において教職員及び学生300余名の参列者の下、実験動物慰霊祭が執り行われました。

慰霊祭は参列者全員で黙禱を行った後、千熊学長から慰霊祭に寄せる挨拶、続いて掛見教授（動物関連研究施設運

営委員長）及び安田准教授（動物関連研究施設管理責任者）から挨拶と施設利用状況等について報告がありました。

さらに、松島教授（研究倫理審査委員長）から「動物実験の倫理について」をテーマに講演がありました。

最後に教育・研究のため尊い犠牲となった実験動物に対し、参列者全員で献花を行い感謝の念を捧げるとともに冥福を祈りました。

教務課

学位授与

[学士]

学士（薬学） 男子4名 女子7名 合計11名

薬学科 6名（男子4名、女子2名）

生命薬学科 5名（男子0名、女子5名）

（平成22年9月30日付）

学生課

「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成22年度）

◎関西薬連大会

| 部名 | 団体戦 | | 個人戦 |
|---------|-----|-------|---|
| 剣道部 | 男子 | 予選敗退 | |
| | 女子 | — | |
| | 新人戦 | 1回戦敗退 | |
| 硬式庭球部 | 男子 | 9位 | |
| | 女子 | 3位 | シングルス/優勝：西山重理沙① 3位：澤田有里② ベスト8：政岡依里③ |
| 硬式野球部 | 男子 | 準優勝 | |
| サッカー部 | 男子 | 4位 | |
| 柔道部 | 男子 | 優勝 | (有段の部) 準優勝：分林孝文③ 3位：安田大佑① (無段の部) 優勝：小山嵩之① 準優勝：森岡俊光① 3位：林 晃正① |
| | 女子 | — | 準優勝：海野真美① 3位：中山佳菜⑤ |
| ソフトテニス部 | 男子 | 6位 | |
| | 女子 | 準優勝 | ダブルス/ベスト8：森田藍奈③・田中由妃②、田中雅子③・長沢理恵② |
| 卓球部 | 男子 | 予選敗退 | |
| | 女子 | — | |
| バドミントン部 | 男子 | 10位 | |
| | 女子 | 3位 | シングルス/優勝：和田智予③ ベスト8：松本千裕②、片山賀寿代③、河村佳奈① ダブルス/ベスト4：和田智予③・松本千裕② ベスト8：片山賀寿代③・河村佳奈① |
| | 新人戦 | — | 女子/ベスト4：田口沙也香① |
| バレーボール部 | 男子 | 準優勝 | |
| | 女子 | 準優勝 | |
| 陸上競技部 | 男子 | 8位 | |
| | 女子 | 7位 | 400m/準優勝：加藤怜奈① 円盤投げ/優勝：尾形歩美②、準優勝：岡野志保② |

◎全国薬連大会

| 部名 | 団体戦 | | 個人戦 |
|-----------|-----|-------|-----------------------------------|
| 剣道部 | 男子 | 予選敗退 | |
| | 女子 | — | |
| ソフトテニス部 | 男子 | 3位 | ダブルス/ベスト8：黒瀬拓己③・江川英毅②、森塚亮太③・前田太一② |
| | 女子 | 準優勝 | ダブルス/ベスト8：西村 祐③・西増春佳② |
| 卓球部 | 男子 | 予選敗退 | ダブルス/ベスト8：阿野雅明④・新田晃平② |
| | 女子 | 予選敗退 | ダブルス/ベスト8：井宮朋子④・玉置千紘④ |
| バスケットボール部 | 男子 | ベスト16 | |
| | 女子 | 予選敗退 | |

注) ○内は学年

第64回関西薬学生バドミントン大会女子シングルス優勝

バドミントン部 和田 智予

2010年の夏は特に暑かった。真夏の体育館では40度を越すことも珍しくなく、そこでバドミントンをするのは過酷である。そのような中、今年も薬連大会が行われた。

高校との大きな違いは試合が5日連続であるということ。その日の疲れはその日に癒されるということはなく、勝ち進むほど体力が必要とされる。1日最高9試合。私は途中で何度もめげそうになった。ここで負けたらどんなに楽だろう、と。しかし、その度に去年を思い出した。去年、私は決勝で負けた。決して勝てない相手ではなかった。私に足りなかったのは体力と気力だった。今日のこの日まで、その悔しさをバネにして練習してきた。

決勝。すでに満身創痍で暑さがよりいっそう意識を薄れさせた。相手は去年と全く同じ。正直、勝敗などどうでもよかった。ただ悔いの残らないよう、精一杯楽しもうと思った。女子部長として、部員に諦める姿を見せたくないという思いもあった。

点数は抜きつ抜かれつと大接戦だったが、1羽1羽を大事に打った。私は試合を十分に楽しんだ。結果、優勝。とても嬉しかった。

バドミントンと出会って私の人生は大きく変わった。諦めなければいつかは報われるということ、人に限界などないこと、限界を決めるとその程度で終わってしまうということを知った。

私はこれからも頑張っていきたい。^^



写真はダブルスベスト4：和田智予(左)、松本千裕(右)ペア

奨学生状況

平成22年10月1日現在

1. 日本学生支援機構

| 区 分 | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 大学院 (博士前期課程) | 大学院 (博士後期課程) | 合計 | |
|-----|--------------------|------|--|-----|-----|-----|-----------------|----------------------------|-----|---|
| 第一種 | 人 数 | 40 | 47 | 35 | 32 | 32 | 20 | 1 | 207 | |
| | 貸与月額 | 自 宅 | | | | | 50,000円* | 80,000円* | | |
| | | 自 宅外 | | | | | 又は 88,000円 | 又は 122,000円 | | |
| 第二種 | 人 数 | 107 | 90 | 98 | 66 | 52 | 7 | 0 | 420 | |
| | 貸与月額 (薬学課程増額月額) | | 3万・5万・8万・10万・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万円の増額可) | | | | | 5万・8万・10万・13万・ 15万円から選択 | | |
| | 合 計 | | 147 | 137 | 133 | 98 | 84 | 27 | | 1 |

*印の金額は、平成21年度採用者から選択可

2. 本学独自の奨学金制度

| 名 称 | 月 額(円) | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 大学院 | 合計 | 給付・貸与 |
|--------------|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| 大阪薬科大学一般奨学金 | 学 部 50,000 大学院 60,000 | 2 | 0 | 5 | 5 | 3 | 1 | 16 | 一部給付 |
| 大阪薬科大学育友会奨学金 | 40,000又は80,000 | 1 | 1 | 6 | 0 | 0 | 1 | 9 | 貸 与 |
| 合 計 | | 3 | 1 | 11 | 5 | 3 | 2 | 25 | |

3. その他の育英・奨学会 (本学を通して推薦している奨学金)

| 名 称 | 月 額(円) | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 大学院 | 合計 | 給付・貸与 |
|----------------|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| あしなが育英会 | 40,000 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 貸与 |
| (財)小野奨学会 | 学 部 30,000 大学院 60,000 | 10 | 9 | 10 | 5 | 1 | 10 | 45 | 給付 |
| (財)河内奨学財団 | 40,000 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | - | 1 | 給付 |
| (財)佐藤奨学会 | 25,000 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | - | 2 | 給付 |
| (財)大東育英会 | 15,000 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | - | 1 | 給付 |
| (財)山口県ひとつづくり財団 | 52,000 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | - | 1 | 貸与 |
| 合 計 | | 10 | 11 | 13 | 7 | 1 | 10 | 52 | |

平成22年度父母懇談会

父母懇談会は今年度で4年目を迎えました。10月16日(土)から12月4日(土)にかけて、学外6会場と本学の計7会場で開催し、合計300名を超えるご父母の参加をいただきました。いずれの会場においても大学側からの説明と熱心な質疑応答があり、ご家庭と大学との意思の疎通を図り、ご子弟の大学生活についてご理解を深めていただけたものと存じます。

特に今回は、これまでアンケートでいただいたご要望にお応えし、本学会場でアドバイザー教員等との面談の機会を設けました。学生と三者で面談される方もあり、約70件の面談が実施されました。

各会場でいただいたアンケートのご意見を参考にしつつ、来年度に向けて改善を図りたいと思います。なお、アンケートの集計結果は、父母懇談会に協賛いただいております育友会を通じて報告させていただきます。

人権学習会の開催 (主催：人権委員会)

平成22年12月17日(金)1限目、C105講義室において、本年度の人権啓発教育として人権学習会を開催しました。今回は、世界人権宣言ができるまでのストーリーと、海外の子ども達が厳しい現実の中でたくましく生きている姿を描いた2本のDVDを鑑賞し、そこから何を学び考えたかについてレポートとして提出させました。

対象者は1年次生及び教職員とし、参加者およそ300名は熱心に視聴していました。



～ 健康管理支援室より ～

ヒトパピローマウイルス (Human Papilloma Virus を略してHPV) について

★HPVはごくありふれたウイルスです。100種類以上のタイプがあり、接触感染で皮膚や粘膜に感染します。多くは一過性で免疫力により自然に排除されます。また、感染したHPVは皮膚や粘膜にとどまり血中にはほとんど入り込まないため、抗原と認識できず抗体ができません。そのため繰り返し感染する可能性があります。

《皮膚感染型HPVと粘膜感染型HPVの種類》

*皮膚感染型HPV ⇒ 1,5,8,14,20,21,25,47型など

*粘膜感染型HPV ⇒ 6,11,16,18,31,33,35,41,45,51,56,58,59,68,70型など

《発がん性のあるHPVの種類》

*低リスク型HPV ⇒ 6,11,40,42,43,44,54,61,70,72,81型など

*高リスク型HPV ⇒ 16,18,31,33,39,45,51,52,56,58,59型など

《知ってほしい！ HPVが原因の疾病》

尖圭コンジローマ

★主にHPV 6, 11型の感染によって性器・肛門周囲にできるイボ状の小さな腫瘍が多発する疾病です。時にHPV16型でも生じます。性感染症 (STD) の一つです。男女ともに罹患し、自覚症状がなくイボが増えて、大きくなってきてから気づきます。放置しておくとも炎症を起こしたり、増殖してカリフラワー状のようになります。

★近年、尖圭コンジローマの原因となるHPVから長い期間を経て性器がんや口腔咽頭がんになる可能性があることが分かってきました。

◎治療には薬物/外科的治療があります。イボを取り除いたとしてもウイルスが残っていると再発を繰り返します。根治治療を！

◎もし、尖圭コンジローマと診断された場合は、互いのパートナーと共に受診し治療してください。

子宮頸がん

◎20～30歳代の若い女性に増えています。

★性交経験のある女性の約80%は一生に一度はHPVに感染すると言われています。誰でも感染の可能性があります。ほとんどは免疫力で排除されます。

特に高リスク型のHPV16、18、52、58型が長期化（持続感染化）すると細胞深く侵入、定着して、細胞の異常分裂を起こしがん化します。高リスク型HPV感染例の1～3%が前がん病変まで至り、そのうちの25%が子宮頸がんになると言われています。女性⇒3～7人/1万人が子宮頸がんを発症する計算になります。

★欧米ではHPV16、18型の割合が70%であるのに対して、日本ではHPV52、58型が多い。しかし若年においてはHPV16、18型の割合が欧米同様に高い。2009年10月に日本でも『HPVワクチン（16、18型の2価ワクチン）』が認可されました。あくまでもHPV16、18型の感染予防の効果があるだけで、すでに感染しているHPV16、18型に関してはウイルスを消失させる効果はありません。しかし、感染したHPV16、18型が一度消失した後の再感染を防ぐことはできます。

《HPVワクチン接種と定期的検診の勧め》

子宮頸がんは早期発見・早期治療が可能な疾患です

★諸外国ではセクシャルデビュー前の若年層（12歳前後）を対象にしていますが、すでに性交経験のある女性でもHPVには何度でも感染する可能性があり、それだけに発がん性のリスクも高くなります。それを防ぐためにもHPVワクチン接種を勧めます。ワクチンを接種しても、20歳代になったら定期的な検診を受け子宮頸がんの早期発見に努めてください。

『HPVワクチンの接種方法』

↓
筋肉注射で計3回の接種

↓
1回目後、1か月後と6か月後に接種

*子宮頸がんの検診受診率は欧米諸国が60～80%に対して日本は20%弱と低く、20歳代前半は5.6%、20歳代後半でも16.3%です。もっと検診に関心を持ってほしいです。

参考資料：厚生労働省 結核・感染症に関する情報/がん研究班編（医療・GL（09年）ガイドライン/グラクソ・スミスクライン株式会社（mirai happy project）/2010 エイズ・感染症特別委員会（子宮頸がん予防HANDBOOK2010）
社団法人 日本女医会 公式ページ/朝日新聞/読売新聞、等

就職活動の入口「エントリーシート」の書き方

世間では今春卒業予定の大学生の就職内定率が平成22年10月1日現在57.6%であると報道されており、学生にとって厳しい戦いが続いておりますが、お陰さまで本学は現在日本の理系大学の中で就職率ランキング1位となっております。ただ、この結果は平成22年3月に卒業した学生が受けた結果であって、現在在学中の学生に対する評価ではありません。素晴らしい先輩達に続いて社会へチャレンジしてください。

今回は、まず企業選考の入口であり大きな壁と言われるエントリーシートに関して紹介致します。

参照用に掲載致しました文は、シアトルマリナーズのイチロー選手が書いた作文です。(出典「就活廃止論」佐藤孝治 PHP新書)

読んでみてどのように感じたでしょうか？ これはイチロー選手が小学6年生の時に書いた作文です。

一度試しに自分の夢を書いてみてください。

こんなに具体的に書ける学生は私が着任して1年間ではほとんどおりません。

これは、作文ですがエントリーシート作成の典型的なサンプルとなります。

エントリーシートは読む相手がほとんど初対面の人です。初対面の人にはいかに分かり易く確実に自分の言いたい内容を理解してもらうかがポイントです。

この作文がなぜ読みやすいかは、シンプルで具体的そして時系列に書かれているからです。また、具体性の象徴が随所に数字を使っているからです。対面で説明する事が出来ない場合、数字や土地名、人名、日時などを使うと読み手にとって伝えたい内容がより明確になります。

時代は大きく変化しております。薬剤師を取り巻く環境は6年制となり厳しくもなり、また無限の新たな可能性が出てまいりました。自分が社会に旅立つまでの時間を大切に使い学生生活にチャレンジしてください。

イチロー選手はプロ中のプロと呼ばれますが、皆さんは就活のプロではなく人生のプロを目指して頑張ってください。

とにかく、これを読んだ後には一度「自分の夢」と題して具体的な作文を書いてみてください。これを実施するかしないかで就職活動の結果は大きく差が出ると断言しておきます。

(キャリアサポート課長 錦野 晴俊)

僕の夢

愛知県西春日井郡とよなり小学校

6年2組 鈴木 一 朗

僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。

そのためには、中学、高校と全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍できるようにするためには、練習が必要ですよ。

僕は3才の時から練習を始めています。

3才から7才までは半年くらいやっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日は激しい練習をやっています。

だから、一週間で友達と遊べる時間は、5、6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。

そして、中学、高校と活躍して、高校を卒業してからプロに入団するつもりです。

そして、その球団は、中日ドラゴンズか西武ライオンズです。

ドラフト入団で、契約金は一億円以上が目標です。僕が自信のあるのは、投手か打撃です。

去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。

(中略)

そして、僕たちは、一年間負け知らずで野球ができました。だから、この調子でこれからも頑張ります。

そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って、応援してもらおうのも夢の一つです。とにかく、一番大きな夢は、プロ野球の選手になることです。

図書課

蔵書検索用パソコン増設

「図書館3階の情報検索コーナーでしか蔵書検索ができないのは不便な状況なので、4階にも蔵書検索用パソコンを設置してほしい」との学生の要望を受けて図書委員会で検討の結果、このたび「教科書・参考書コーナー」横に図書館ホームページ（蔵書検索、電子ジャーナル、データベース、学術雑誌目録等）専用のパソコン2台を設置しました。

教育・研究に大いに活用してください。

健康と暮らしに関する雑誌コーナー新設

図書館では、現在所蔵している学術・教養雑誌のなかから「健康と暮らし」に関する雑誌（右記 12誌）を選定して、学生が最も集まる3階の「新着図書コーナー」横に別置することとしました。

WHO（世界保健機関）では「健康とは、身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態をいい、単に病気にかかっていないとか病弱でないということではない」と定義しています。

近年、生活習慣病について雑誌や新聞に頻繁に取り上げられていますが、これは若い頃からの食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣がその発症・進行に関与する病気です。

忙しい学生生活でつい疎かにしがちなのが健康です。本学での学生生活を有意義に過ごすためにはまず「健康な体をつくる」ことが大切です。

このコーナーを大いに利用して健康で有意義な学生生活を送ってください。

雑誌一覧

- ① an・an（マガジンハウス）
- ② 栄養と料理（女子栄養大学出版部）
- ③ オレンジページ（オレンジページ）
- ④ からだの科学（日本評論社）
- ⑤ きょうの健康（NHK出版）
- ⑥ 暮らしの手帖（暮らしの手帖社）
- ⑦ SAVVY（京阪神エルマガジン社）
- ⑧ ソトコト（木楽舎）
- ⑨ 体育の科学（杏林書院）
- ⑩ 日経ヘルス（日経BP社）
- ⑪ BE-PAL（小学館）
- ⑫ Pen（阪急コミュニケーションズ）



総務広報部会

大阪薬科大学報は前回の61号（平成22年10月1日発行）から一部をリニューアルし、学生向けの記事・情報をより多く掲載するよう努めています。

61号配付の際、今後発行する学報の誌面づくりに学生の声を反映させるためアンケートを実施しましたが、本号では同アンケート結果の概要についてお知らせします。

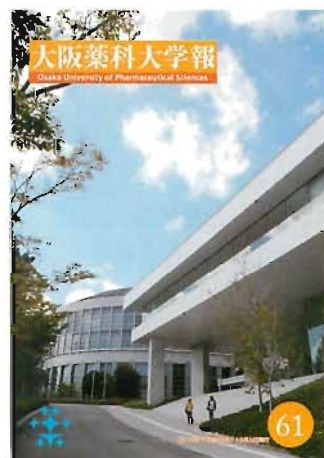
なお、回答内容が重複するものについては一つにまとめて記述しています。

「大阪薬科大学報」に関するアンケート結果

Q1 今回の学報61号の印象・感想などを記入してください。

●良かったもの及びその理由（掲載順）

- ① 学報のリニューアル（広報委員長）
 - ・読み通す気がわいた（2年次生）
- ② 学長からのメッセージ（学長）
 - ・理由無記入（院生）
- ③ 図書館からのメッセージ（図書館長）
 - ・DVDの内容がわかった（2年次生）
- ④ 就任の挨拶（新任教授6名）
 - ・掲載されている先生方の授業をうけているから（4年次生）
 - ・実習でお世話になっている先生のコメントがあるから（5年次生）
 - ・新任教員のことについて学生は他に知る術がないから（院生）
 - ・知らなかったから（院生）
 - ・理由無記入（院生）
- ⑤ 三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（教授（特任））
 - ・学内でこんなことが起こっているのを知らなかったから（4年次生）
- ⑥ 平成21年度大学院博士前期（修士）課程修了者（34期生）の進路・就職状況について（キャリアサポート部長）
 - ・大学卒業後の進路を考えるようになったから（4年次生）
 - ・理由無記入（院生2名）
- ⑦ 第95回薬剤師国家試験の結果（薬剤師国家試験対策委員長）
 - ・気になる（5年次生）
 - ・理由無記入（5年次生）
- ⑧ 平成21年度学校法人決算及び平成22年度学校法人予算（事務局長）
 - ・理由無記入（5年次生）
- ⑨ 事務局だより／総務課 人事（総務課）
 - ・人の出入りは興味がある（5年次生）
- ⑩ 事務局だより／総務課 平成22年度科学研究費補助金採択状況（総務課）
 - ・やはり気になる（院生）
- ⑪ 事務局だより／入試課 オープンキャンパス2010（入試課）
 - ・オープンキャンパスが気になっていたから（5年次生）
- ⑫ 教員研究業績（図書課）
 - ・どの先生がどういった活躍をされているのかがわかった（2年次生）
 - ・他の研究室の研究内容がわかるから（院生2名）
 - ・理由無記入（院生）
- ⑬ 事務局だより／図書課 「教科書・参考書コーナー」の設置について（図書課）
 - ・理由無記入（5年次生）



- ⑭ 薬用植物の紹介（薬用植物園長）
 - ・写真が美しい（5年次生）
 - ・読んでいて楽しい（5年次生）
 - ・興味をもって、楽しんで読める（5年次生）
 - ・興味がある（5年次生・院生）
- ⑮ アンケートシート
 - ・良い意見、悪い意見とも3つ書ける点が良い（4年次生）



●興味のもてなかったもの及びその理由（掲載順）

- ① 表紙・CONTENTS
 - ・写真の使いまわしがひどい。表紙に映っている人の許可がとれていないのではないか（4年次生）
- ② 就任の挨拶
 - ・写真が訃報を連想させる（4年次生）
- ③ 平成22年度市民講座（市民講座委員長）
 - ・理由無記入（院生）
- ④ 平成21年度学校法人決算及び平成22年度学校法人予算（事務局長）
 - ・監査報告書に興味がない（5年次生）
 - ・学報として載せるべきなのはわかるが、学生にはピンとこない（院生）
 - ・お金関係に興味がない（院生）
 - ・理由無記入（院生2名）
- ⑤ 事務局だより／入試課 平成22年度入試結果・平成23年度入試概要（入試課）
 - ・既に入学している在学生には必要のない情報（2年次生・4年次生・5年次生）

Q2

学報で取り上げてほしいテーマや特集などを記入してください。

- ① 学生生活（1年次生）
- ② 他大学の状況、他大学との比較など（2年次生）
- ③ 4年制と6年制の違いについて詳しくとりあげてほしい（3年次生）
- ④ 四季を感じさせる写真を増やしてほしい（4年次生）
- ⑤ 育友会報だけでなく、学報にも薬連の結果を載せてほしい。もうすこし大きく大薬祭の記事を扱ってほしかった（4年次生）
- ⑥ 研究室の紹介（院生2名）
- ⑦ 学生に身近なこと（院生）
- ⑧ 入試、国試、OSCE、CBT、クラブ活動など、学生に直接関係する情報（院生）

Q3

学報に関するご意見・ご要望などを何なりと記入してください。

- ① 学生の声や学生の視点がほしい（1年次生）
- ② 育友会報と内容が一部重複しているが、学報では必要ないものがあると思う（3年次生）
- ③ 写真の大切さ、写真が与える印象についてもっと真剣に考えてほしい（4年次生）
- ④ 学生によって作成された記事があったら学生たちも学報に興味が出ると思う（4年次生）
- ⑤ 全体的に文字ばかりであまり読む気にならなかった（院生）
- ⑥ リニューアルに懸ける広報委員会各位の意気込みは伝わりました（院生）
- ⑦ 良くなったと思う（院生）

総務広報部会では、これらのご意見やご要望などを踏まえて、学報62号以降の企画・編集にあたりたいと考えています。学業多忙の中、多くの率直かつ貴重なご意見をありがとうございました。

薬 用 植 物 の 紹 介

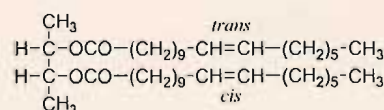
ハトムギ *Coix lacryma-jobi* LINNE var. *mayuen* STAPF

薬用植物園長 馬場きみ江

ハトムギ(中国名: 川穀^{センコク})はインドシナ地方原産のイネ科の植物で、日本には弘法大師が持ち帰ったという説もあり、弘法ムギという名でも呼ばれている。寒い土地には不向きな植物で、西南部の温暖な地方で栽培されている。現在日本市場にでまわっているものはタイ、ベトナム、中国、北朝鮮が主産地である。性状は草丈1~1.5m、茎は直立し、葉は互生する。根部は短い根茎と多数の細根からなり、根の長さは10~20cmで、細長い縦じわがあり、折れやすい。花期は8~9月。えき生の穂状花序に数個の花をつける。9月下旬に結実する。果実(えい果)は8~10mmの楕円形を呈し、茶褐色である。成熟時に刈り取り、2~3日乾燥し種皮を取り除いたものが、生薬の薏苡仁^{ヨクイミン}である(脱穀していないものはハトムギと呼ぶ)。性状は弱いにおいがあり、白色で重く肥大していて、味はわずかに甘く、噛むとネチネチと付くものが良品とされる。ハトムギに非常によく似ているジュズダマ *C. lacryma-jobi* L. (中国名: 薏苡^{センコク})はハトムギの母種にあたり、ハトムギはその栽培種であるが、ジュズダマが多年草で、種子(生薬名: 川穀^{センコク})の殻がほうろう質で堅く厚いものに対して、ハトムギは1年草で、殻が薄くて指で押さえると、簡単に潰れるのですぐに区別できる。しかし、両植物間でそれぞれの植物の中国名と生薬名とが入れ違っているので、注意が必要である。子供の頃、ジュズダマの芯を抜き取って針糸に通し、首飾りにしてよく遊んだ思い出がある。種小名の *lacryma-jobi* は、ラテン語で「ヨブの涙」の意味。ヨブは旧約聖書の「ヨブ記」に出てくる人物で神への深い信仰心をもつが、これを覆そうとサタンがあらゆる手段で苦しめる。しかしながら、ヨブは決して神への信仰を捨てなかった。植物学者のリンネはジュズダマの花序に垂れる大粒の果実の様子を、試練に苦しむヨブの眼からしたたり落ちる大粒の涙に見立てて、この名前を命名したといわれる。ハトムギの変種名 *mayuen* は、古代中国では小粒のジュズダマを使用していたが、後漢代に馬媛^{ばえん}によって大粒のものが南方よりもたらされ、これが薏苡仁の原料となったことに由来する。また、ハトムギという名前は「一反あたり8斗も収穫出来る麦」という意味で、鳩が好む麦「鳩麦」ではないという。このように植物名の謂われを知ると、ただ丸暗記しなくても簡単に学名を覚えることが出来ると思う。薏苡仁は「神農本草経^{しんののほんぞうきやう}」の上品に薏苡子^{ヨクイミン}の名で収載されており、その薬効は「筋急拘攣^{きんきゅうくわん}して屈伸するべからず、風湿痺^{ふうしつび}を治す。気を下す。」と記されている。成分



にたんぱく質のコイクシンデンA、B、多糖類のグルカン1-7、コイクサンA、B、C、アラビノガラクトンおよびこれらを含む多糖類(CA-1、CA-2)、脂肪酸エステルのコイクセノライド、ステロールのフェロイルカンベステロールおよびフェロイルスチグマステロールなどを含む。感作ヒツジ血球に対して、アラビノガラクトンおよびCA-1、CA-2は抗補体活性を示す。薏苡仁エキスをヒトに経口投与すると、末梢血管中のナチュラルキラー細胞CD16⁺CD57⁺、細胞障害性T細胞CD3⁺CD56⁺の比率が増加し、抗ウイルス作用、抗がん作用の一部がこの細胞障害時の作用の増強によると考えられている。また、コイクサンA、B、Cには正常マウスの血糖を下降し、その作用はコイクサンAが最も強く、アロキサン糖尿病マウスの血糖を下降する。エーテルエキスはカエル後肢神経筋標本による実験で骨格筋に作用して、その収縮性を減弱させ、ウサギ皮下投与で血糖量および血清カルシウム量を低下する。メタノールエキスおよびコイクセノライドはマウスのエールリッヒ腹水がんで延命効果を示す。さらに、マウス皮膚二段階発がん抑制試験において、薏苡仁投与により腫瘍発生数が減少するという報告がある。漢方処方では、水分代謝を調節し、神経痛、筋肉痛、リウマチの改善薬として有名な麻杏薏甘湯^{まきょういんかんとう}、薏苡仁湯^{いんじんとう}がある。また婦人で、下腹部などに瘀血^{まじりけつ}があり、肩こり、のぼせのほか、ニキビ、シミ、肌荒れの症状に用いる桂枝茯苓丸^{けいしひくわん}加薏苡仁湯^{かいんじんとう}などがある。一方、薏苡仁はイボ取りの民間薬としても知られているが、この効用は江戸時代の本草学者である貝原益軒が「大和本草」に記載したものが最初の記述である。この薬効は中国の古い書物には全く記載されていない。現在ハトムギは日本に大量に輸入され、そのほとんどが健康飲料の茶として使用されている。



コイクセノライド